

第27回

日教組 人権教育実践交流集会 in埼玉

11月18日（土）19（日）の両日、埼玉県で開催された人権教育実践交流集会は、全国各地から約160名が参加しました。福井県からは、青年部より2名が参加しました。

1日目 全体会・分科会



午前中の全体会では開会行事に続いて、石川一雄さんから「狭山事件の再審無罪を訴え続けて」という講演と、埼玉教組の岩崎正芳さんから「先生、部落って何ですか？ ～立ち上げた子ども会、そこに座り続けることで～」の講演がありました。

岩崎さんの講演では、37年間の教員生活の中で出会った部落差別問題に巻き込まれていた子どもたちとの関わりの中で、部落と向き合う活動を語っていただきました。部落差別をなくしたいと伝え続けてきた岩崎さんが語る子どもたちの姿は、本当に生々しく、切ないものでした。

午後からは4つの分科会に分かれ、レポート報告がされました。第1分科会「憲法・子どもの人権条約と人権教育」では、不登校児童に対する認識とアプローチの仕方について議論がなされました。様々な見方があり、一様に不登校児童を早期に学校に戻すことだけが目的になるのではないのと感じました。

日教組人権教育実践交流集会



全体会（現地報告）



分科会（第1分科会）
（憲法・子どもの権利条件と人間教育）

2日目 フィールドワーク



フィールドワーク（丸木美術館）

「丸木美術館・岩殿観音」のコースに参加しました。丸木美術館では、丸木位里・俊夫妻が広島に原爆が落とされた直後の光景を、ありのままに伝えるために描いた作品を鑑賞しました。焼けただれた皮膚が落ちないように手を前に出して歩くたくさんの人を描いたその絵は、まさしく地獄絵図を表し、人々が幽霊のように見えました。日本各地にとどまらず世界各地でも展覧会が行われるほど、戦争について考えさせられる作品でした。

〈感想〉これほど人権について、差別について、考えたり話し合ったりする機会がこれまででなかったので、とてもよい経験になりました。福井にも被差別部落があるとされていますが、私の身近にはあまりそのような意識は感じられません。しかし、だからといって知らなくてもいいということではなく、今なお差別と闘い続けている人たちがいることを、歴史からも学んでいかなければならないと感じました。

【県教組の人権に関する図書資料】

- No 1 リバティおおさか ワークシート 小学生版
- No 2 リバティおおさか ワークシート 中学生版
著者：大阪人権博物館 2005年発行
- No 3 どうしてぼくをいじめるの？

著者：ルイスサッカー 2009年発行
などがあります。また、視聴覚資料として多数のビデオがあります。貸出はメール、FAX等でご連絡ください。
2017年4月から累計で92件の貸出しをしています。